



経験とデータを活かしたさつま芋

話し手 さつま芋専門店 成川青果

ながま りき
中間 力さん (昭和27年5月10日生)

聞き手 鹿児島県立指宿高等学校 普通科 2年



海から芋へ

俺はね、さつま芋を専門に商売をしてる。さつま芋の栽培から販売、そして、苗の販売もね。今、指宿周辺で60種類くらいのさつま芋を栽培してるな。

生まれは、山川で、高校も山川高校の水産科だね。高校を卒業してすぐ船乗りになって、24、5歳から船長をしとった。母ちゃんと結婚した後、「船乗りを続けるなら別れる！」って言われたから、「はい、降ります！」って言ったよね。35歳くらいから食べ物などの移動販売をしたり、デパートの物産展に品物を出したりしてたね。鹿児島の3S(焼酎、さつま芋、さつまあげ)をメインに大阪とか東京に売ってた。全国を回ってるうちに、「さつま芋」の種類を専門にしている人とか、「さつま芋」の苗を販売している人がいないことに気づいて、「これだ！」って思って、今の仕事をするようになったね。



山川とさつま芋

さつま芋は、(江戸中期頃)山川出身の前田利右衛門さんが持ちこんだもので、唐(中国)から来た唐芋(からいも)ってよく言うよね。でも、もっと前からあったかもしれんね。山川の港は昔から薩摩藩が密貿易をしちよったからね。いつが始まりってわからんね。でもまあ、日本では鹿児島は早くから作ったのよね。



俺が地元の90才のばあちゃんから聞いた話だけど、西郷隆盛さんは、指宿の芋が好きで食べに来て、苗を植えたって聞いたよ。他にも西郷さんは「さつま芋、里芋、ジャガイモ」を全国に

持って行ったみたいね。北海道まで持っていったけど、北海道ではさつま芋は育たなかったみたいね。

昔(大正~昭和)はデンプン工場を盛んに建てたみたいで、この辺でもデンプン用のさつま芋をたくさん作ってたみたい。でも、外国産の安い芋が来て、だんだんとさつま芋を栽培する人は減ったみたいね。その代わりにこの辺の人はオクラとか他の農産物を作る人が増えたのよ。最近は、焼酎用のさつま芋栽培する人とかもいるね。

芋は子供と一緒に

皆、さつま芋栽培っていうと「え~芋か」っていうけど、農産物で一番難しいのはな、さつま芋じゃ。芋は子供と一緒に性格があるから。暑さに強い子もいれば弱い子もいるし、水はけがいい土地で育つ子もいれば育たない子もいるしね。だから、同じ畑に10種類植えて、よくできた子は「いい子だね」つつめてそこで育てるし、できなかつたら次はどうしようか考えるのよね。

指宿市内でも、畑によって育つ芋、育たない芋ってあるからね。



データが大事!

苗を販売していると、苗を買ったお客さんから「どうしたら上手く栽培できるの?」ってよく聞かれるの。そういう時はいつも「まずは植えんか」って言うの。農業、さつま芋はね、気象学を知らなきゃね、やってけないのね。自分の経験したこと、自分の勉強したことをデータに残すと役に立つんだな。移動販売を始めた時も、全てデータに取ってたね。データを取ることで、地区によって好みがあることが分かるからな。その経験が、今、仕事に役立つ。

データを取らないと息もできないなあ。さつま芋だけじゃなくて何事もそういう積み重ねが大事よね。

聞き書きコラム



指宿にも適したさつま芋栽培

一般的に、さつま芋栽培の適地とされているのが、以下の通りだ。「乾燥に強く砂地や火山灰土などでもよく生育し、最暖月(最も気温が高い月)の平均気温が22℃以上、または年平均気温10℃以上が適地。」と言われている。とはいえ、品種毎に細やかな栽培条件の違いがあり、県内では多様な環境と生産者の努力により、現在様々な品種が栽培されている。